

## 「山本太郎となぜタッグを組まないのですか？」

令和2年7月8日

### ●有野洋輔さんからの質問

20年以上のデフレやコロナ危機脱却のため消費減税（最終的に廃止）の実現が必須と感じますが、実現するための有効な方法を一国民として真剣に考えています。自民党内部で西田先生を筆頭に総理（安倍総理の次の総理かもしれませんが）を説得していただくのか、あるいは全国に草の根での地殻変動を起こしているれいわ新選組、山本太郎氏のように西田先生の財政政策を理解し筋の通った政治理念をもつ人たちを支持することが有効か、と考えています。西田先生のお考えの、本気で消費減税（インフレが起きない限り消費税廃止を目指す）の実現可能性を高める方策を教えてくださいと幸いです。どうぞよろしくお願いたします。

### ●しばけんさんからの質問

インターネットの普及により、財政破綻論を疑う人は確実に増えていると思います。ただ、MMT や積極財政を YouTube で主張する方は個性的な方が多いと感じられます。京都大学の藤井聡氏、経済評論家の三橋貴明氏、上念司氏はまだしも、東京都知事選に出馬している山本太郎氏のほか、立花孝志氏、桜井誠氏も積極財政を主張しています。どの方も正しい財政政策を主張しているにも関わらず、言動や行動で大きく損をしていると思います。緊縮財政派は一見紳士的に見える方が大半です。これではいつまで経っても、単なるイロモノ YouTuber の域を出ず、本当の信頼を勝ち取れないのではないのでしょうか？私の中で唯一積極財政派で紳士だと思う西田さんに本件、ご意見頂ければ幸いです。

## ●西田昌司の答え

政治家を評価する際、掲げている政策が大事であることは言うまでもありませんが、しかし、それよりも大事なのはその政治家の人格です。

1994年の衆議院議員総選挙で小選挙区制が導入されましたが、その頃、私は京都府議会議員でした。小選挙区制導入の是非について、京都において地方公聴会が開かれましたが、私は反対側の公述人として意見を述べました。

小選挙区制導入が叫ばれる背景には「政治家は政策で選ぶべき」という考えがありました。中選挙区制の場合、同じ選挙区で複数の自民党候補が争うこととなりますが、政策がほとんど同じとなるとサービス合戦になってしまっただけで無駄な費用がかかってしまう、という批判がありました。小選挙区制にすれば、そのようなことにはならず政策で選ぶことができる、といったことを小沢一郎さんらが喧伝しました。

当時、小沢さんは自民党議員でしたが、自民党内部からも小沢さんに反対の声が上がり、小沢さんは自民党を飛び出して新生党という新党を結成しました。その後、小選挙区制が導入されることになったのですが、「政治家は政策で選ぶべき」というもっともらしい言葉には警戒しなければなりません。

その時々で焦点となる政策はいろいろあります。コロナ禍の現在においては「消費税率をゼロにするかどうか」が最大の政治課題ですし、福島原発の事故が起こった頃は「原発を続けるかどうか」が最大の関心事でした。選挙の際、そういったその時々最大の政治課題をどうするかに焦点を絞って有権者の真意を問うというワンイシュー・ポリティクスが小泉政権時の郵政解散総選挙において繰り広げられましたが、政治的な課題は一つではありません。

政治の世界は「一寸先は闇」ですし、いつ何時、何が起こるかわかりません。そのような不測の事態となった時、「政治家がどのような行動をするか、

いかなる判断をするか」は、その政治家の人格にかかっているのです。選挙において問うべきは「この政治家は信用できるかどうか」でありますし、個別の政策がいくら正しかろうが、信用できない人物に票を投じてはならないのです。

私は参議院議員として6年間、山本太郎さんと時間と空間を共有しました。彼の様々な言動・行動・仕草を近くで見てきましたが「とても信用できる人物ではない」というのが私の率直な感想です。私と山本太郎さんは「消費税をゼロにすべき」という点においては同じ考えですし、ゆえに「なぜ山本太郎と消費税ゼロでタッグを組まないのですか？自民党内部でこそこそやっていないで、外に出て連携すべきでは？」とよく聞かれるのですが、私には全く理解できません。ワンイシュー・ポリティクスをやってはならないのです。

マスコミは、全体を見ずにたった一つのことにとこだわって報道しますが、ワンイシュー・ポリティクスを突き詰めると、政治がどんどん単純化されて非常に幼稚なものになってしまいます。自民党が民主党に政権を奪われた時も、「自民党、続けますか、止めますか」といった具合の単純な報道がなされ、悪夢の民主党政権時代を招いたのです。

財務省が唱え続けた財政均衡主義なる考えが全くの誤りであったということに（政治家も含めて）多くの人気が付き始めたのは良い傾向ですし、MMTも少しずつ理解されてきてはいますが、MMT的な発言をする政治家であるからといって、そのことだけで信頼して良いわけはありません。

いくら貨幣観が正しくとも、人格の伴っていない政治家に政治を託すととんでもない結果になってしまいますから、ここは慎重に判断をせねばなりません。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>